

# サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

## 結果報告書

タイトル	～楽しくおいしく学ぼう～ながーい流しそうめん大会
代表者	経営学部 星野 世翔
企画概要	<p>数年前から全国で放置竹林が問題視されており、その解決に向け NPO 法人や各地域のボランティア団体の方たちが活動しておられますが、人手が足りず、放置竹林問題は増え続けている現状にあります。このように様々な環境問題が地球に影響を及ぼしているものの、私たち学生含め、普段から生活していると関わり合いになることも少なく、関心が低いと考えます。そこで私たちは、京都産業大学が山の近くにあることと学内に坂が多いことから、この地形を利用し、情報収集などのフィールドワークを通じて、ゼミ生間で報告会・議論を行うのと同時に、我がゼミを発信源として「流しそうめん企画」を立ち上げ、たくさんの方々においしく楽しく放置竹林問題について関心を持ってもらうため活動を行いました。</p>
結果報告	<p>サギタリウス・チャレンジという企画に「流しそうめん企画」が採択されてから、まず初めに私たちが行ったことは、自らの足で放置竹林に行きその現状を目で見て、確かめることでした。京都、滋賀、奈良の放置竹林に出向き話を聞いてきた結果、放置竹林ができた理由には、先祖代々続く自分の所有している竹林だが後継ぎがいなく整備する人がいなくなったということと、NPO 団体やボランティアの協力はあるがそれでも人手が足りないという共通したものでした。</p> <p>ゼミ内で情報を共有した後、竹の伐採を、流しそうめんの長さの世界記録を持っておられる、京都府井手町商工会の方に協力してもらい行いました。竹切りのノウハウを一から教えてもらい井手町の放置竹林から 250 本の竹を伐採しました。それを学内へと持ち帰り、加工、組み立てを行い流しそうめん本番へと臨みました。</p> <p>これと同時並行に、流しそうめん当日、人が来なければ意味がないので、BLOG,facebook, twitter に私たちのページを作り、放置竹林問題、活動内容、当日の宣伝を主に日々更新を行い、SNS機能での宣伝に力を入れました。また、学内の学生に知ってもらうため、ビラを作り学内で配付し、海外の方にも放置竹林問題と流しそうめんという日本の文化を知ってほしかったので、英語のビラを作り留学生を対象に配付しました。</p> <p>流しそうめん当日は、放置竹林問題に触れてもらうため、来場者には放置竹林問題についての冊子の配付とパネルを使いを放置竹林問題についての説明を行いました。</p> <p>いよいよ迎えた本番当日、2012年10月13日。晴天にも恵まれ1200人もの、親子や留学生、学生が来てくれました。たくさんの方にお越しいただき、笑顔になってもらい、放置竹林問題についても勉強してもらうことが出来たので、大成功になったと思えました。</p> <p>その後の活動としては、使用した竹を、業者に依頼し竹炭へと変えていただき再利用を行いました。また、ニュースや各新聞社の方にもこの取り組みを取り上げていただき、広い範囲の方々に流しそうめんを通し放置竹林問題を知っていただけたと思います。</p>

感想

ゼミ内で、ゼミ活動とはまた別の取り組みがしたいと応募した、このサギタリウス・チャレンジでの「流しそうめん企画」。私たちには出来すぎたように最終選考まで残り、採用していただく結果となりました。しかし、考えは甘くそこからが苦労の始まりでした。流しそうめんをするといっても、ゼミ生は誰も竹を切ったこともなく、ましてや放置竹林のことについては何も知らない。そこで私たちに出来ることは自分たちの「足」を使って動くことでした。フィールドワークを始め、流しそうめんを経験したことがある方に直接、話を聞きに行ったりと決して立ち止まらず、自分たちで出来ることを考え、放置竹林問題解決と流しそうめんが成功するようにと動き続けました。本番に近づくにつれ計画不足での壁に突き当たり、ゼミ生間でぶつかることも多々ありました。しかし、その壁を乗り越えてくれたのもこのゼミ生、私の周りに仲間がいたからでした。私ひとりでは間違いなくこのような企画を成功することはできませんでした。お互いの得意分野を活かしつつ自分にできる仕事を考え24人ひとりひとりが決してさぼることなく動き続けたのです。これが今回の流しそうめん企画での1番の収穫ではないでしょうか。また、流しそうめんのノウハウを1から教えていただいた井出町の方をはじめ、たくさんの方に協力していただき人の暖かさを知りました。たくさんの方の力が集まり、当日1200人以上もの人に来ていただけた大成功を収めることが出来たのです。こんなにたくさんの方の笑顔を見ることが出来た瞬間は今までの苦労や疲れなど一瞬で忘れさせてくれる出来事でした。私はあの日あの瞬間の私たちゼミ生を含め、たくさんの方の笑顔を忘れることはないでしょう。

この4年という短い大学生活。何を頑張るかは人それぞれです。私たちはその1年間をこの「流しそうめん企画」に費やしました。しかし、決して後悔などしていません。苦労も困難もたくさんあったけど、それよりも得たものは大きく、何よりも、一つのことにとただひたむきに取り組むという大切さを教えていただきました。私たちは今後もこの活動を通して学んだことを活かし、悔いのない大学生活を送っていきたいと思います。

最後になりましたが、この企画を行うにあたって私たちに関わってくれた、すべての人との出会いと協力してくださった優しさに「感謝」です。本当にありがとうございました。